

くまがわ・明日の川づくり報告会 VOL.1 4

開催地：多良木町多良木10区の2

平成19年6月25日(月)、多良木町多良木10区の2において、「くまがわ・明日の川づくり報告会」を実施しました。

多良木10区の2公民分館にて開催された同報告会には、約10名の方々にお集まり頂き、球磨川水系河川整備基本方針の内容や小委員会等での審議の状況についてご報告いたしました。

いただいたご意見等並びにご意見等への回答については下記のとおりです。

なお、報告会の時に回答した内容が不十分であったところについては補足しています。

参加者数※

町内	11名
町外	1名

※参加者数は記名者数

住民の方々から頂いた主なご意見・ご質問	ご意見・ご質問への回答
<p>【河川整備基本方針の説明について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ダムでなければ洪水に対応できないという説明に聞こえる。 	<ul style="list-style-type: none"> ダムなどの具体の施設については、今後、河川整備計画を作成する際に検討していくこととなります。
<ul style="list-style-type: none"> 100年に1回や80年に1回の洪水に対応と言うけれど、有史以来そうした洪水は何度も起きています。それでも、人吉・球磨の自然が残っている。危機感をあおらなくてもよいのではいか。 	<ul style="list-style-type: none"> 近年、球磨川では、人吉地点において4,000m³/s前後の洪水が頻発しており、球磨川中流部を中心に床上浸水被害が発生しています。また、昭和40年や昭和57年洪水では5,000m³/sを超える流量を記録し大きな被害が発生しました。 宮崎県の大淀川、五ヶ瀬川では、過去40年程の間に基本高水のピーク流量相当の洪水は発生していなかったにも拘わらず、平成17年にこれを超過する洪水が発生しています。このようなことから、球磨川で基本高水のピーク流量7,000m³/s相当の洪水は起こり得るものと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> 説明を聞いていると、川辺川の利水問題につながる話に聞こえる。 	<ul style="list-style-type: none"> 基本方針は、球磨川における長期的な河川整備の目標等を定めるものですので、ご懸念のようなことは考えておりません。
<ul style="list-style-type: none"> 基本高水流量、計画高水流量は住民の意見によって変わることはないのか。基本方針に住民意見が反映される機会が無いのはおかしい。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後、地球温暖化に伴う気候変動、森林の保水力等に関する新たな知見により、基本高水のピーク流量算出の前提条件が著しく変化することが明らかとなった場合には、必要に応じ基本方針の内容を見直すこととしており、この旨、基本方針にも明記されています。
<ul style="list-style-type: none"> ダムには限界があるのだから、異常降雨に備えて計画高水流量4,000m³/sを5,000m³/sにすることを検討すべき。 	<ul style="list-style-type: none"> 河道でできるだけ多くの流量を安全に流すことを念頭に、河道掘削に加え、引堤や嵩上げ等の方法の組合せも考慮し、環境を含む自然的及び社会的制約の中で、河道でどれだけの流量を安全に流し得るのかという検討を実施したうえで、人吉地点の計画高水流量を4,000m³/sとしています。 仰るとおり、ダムの洪水調節にも限界があるように河道の流下能力にも限界があります。 気候変動等による集中豪雨が頻発している状況も踏まえ、基本方針で想定している規模を上回る洪水や施設の整備途上での洪水の発生も想定し、ハード対策と併せてハザードマップの整備等のソフト対策にも重点を置き、被害の最小化に向けた取り

<ul style="list-style-type: none"> ・人吉層はそんなにたくさん分布していないのではないか。 ・歴史的洪水の青井阿蘇神社の例について、当時とは川の状態が違うのではないか。 ・双方向に検証し議論し合う場を設定しないと、一方的な計画を押し付けることにしかない。 ・住民団体が示している基本高水は 5,500m³/s だが、この流量は今の状態でだいたい流れる。国土交通省の言うように、400m³/s 分の掘削を行い、人吉の上流に遊水地をつくれれば水位を下げられるのではないか。こういうことを検証し合いたい。 	<p>組みを実施していく必要があると考えています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・人吉層は人吉市街地の川沿いに広く分布しています。(第8回小委員会の資料3を参照して下さい。) ・球磨川の人吉区間における本格的な河道改修は昭和40年洪水以降であり、それ以前には大規模な河道改変は無かったものと考えられます。 このため、歴史的な洪水の検証は、現存する最古の資料である昭和40年河道断面により実施しています。 ・具体の整備内容等を定める河川整備計画の策定にあたっては、必要に応じて関係住民の意見を反映させる措置を講じるよう法律に定められており、今後とも住民の皆様のご意見をお聴きしていきたいと考えています。 ・人吉地点の現況流下能力は 3,600m³/s 程度であり、今後、河道改修等を実施した場合、安全に流し得る流量は 4,000m³/s です。 例えば、昭和57年7月洪水では、人吉地点において 5,000m³/s を超える流量を記録していますが、このときのピーク水位は計画高水位を越えており、人吉市の一部では、氾濫による浸水被害が発生するなど、洪水が安全に流れたとは言えない状況であったと考えています。 人吉地点の基本高水のピーク流量 7,000m³/s と計画高水流量 4,000m³/s との差分 3,000m³/s については、ダムや遊水地等の洪水調節施設で対応することになります。 具体の施設については、今後、河川整備計画を作成する際に検討していくこととなります。
<p>【球磨川の治水対策について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今は上流部でも堤防が整備され浸水被害の心配がなくなっているが、以前は市房ダムが放流する際に避難命令が出ていた。 ・危機感をあおってダムをつくるよりも堤防の整備を進めて、災害が起きれば災害援助法で復旧工事を行う方が地元の業者にも良い。 ・下流域の洪水が市房ダムの影響ではないかということについて説明して欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・人吉より上流の多良木町やあさぎり町等では、かつては洪水で氾濫していたとの記録が残っていますが、現在は堤防整備が概成し、洪水による被害は減少しています。 ・国土保全の観点から、基本方針では、自然的、社会的な制約を考慮し、堤防の整備、嵩上げなどを含む河川改修によってどこまで河道内で洪水を安全に流し得るかを検討した上で、計画高水流量(人吉地点：4,000m³/s)を決定しています。 球磨川では、基本高水のピーク流量(同地点で 7,000m³/s)がこの計画高水流量よりも大きいことから、その差分をダムや遊水地等によって洪水調節しなければ対応できないと考えています。具体の洪水調節施設については、今後、河川整備計画を策定する際に検討していくこととなります。 <p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・昭和40年7月の洪水では、雨の降り始めから7月2日23時までには入ってくる水をダムに貯めておりません。その後、ダムに入ってくる水の量が増えたため、少しずつダムに水を貯め、球磨川を流れる水の量を減らしました。そして、ダムに入ってくる

<ul style="list-style-type: none"> ・避難勧告が出る場所はいつも同じで王宮橋の下流左岸であり、仮ブロックを積み上げたりしている。地形上、洪水の流れが当たる場所にあるのだから、堤防が壊れないように天端までコンクリートを打つなどの対策ができないか。 	<p>水の量が最も多くなった7月3日3時頃862m³/sの最大流量がありましたが、ダム操作により341m³/sの洪水調節を行い、521m³/sを放流しています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・報告会后、ご発言いただいた方と一緒に現地を確認させていただきましたが、今後どのようなことが対応できるのか検討したいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・我々が小さい頃に比べるとヨシ原がものすごく増えてきた。以前、ヨシ原は水を浄化するのでいいのではという話もあったが、増えすぎるのも困る。川幅が本来の1/3くらいしかないところもあり、何とかできないか。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ヨシ原が洪水の流下に影響を及ぼすと判断される場合は撤去することになりますので、今後とも現地を確認の上、洪水による影響について検討したいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・市房ダムができてから、洪水の量が増えるようになったと聞いている。なぜ一気に水位があがるのか、水害体験者が納得する説明をすることが必要。また、一方的な説明でなくて、それらの方に反論する機会を与えることが必要。 	<ul style="list-style-type: none"> ・昭和40年洪水については、県のデータを見る限り市房ダムでは適正な操作が行われていたと考えています。 しかしながら一方で人吉市の地元の方からは急激な水位上昇が生じたと多数の方からお聞きしているところですが、これを受け、当時の状況をよくご存じの方々から、洪水時にどのような状況だったのか、さらに詳しくお聴きするなどして、河川管理者としての説明責任を果たすことができるよう努めてまいります。
<ul style="list-style-type: none"> ・市房ダムは完成してから50年になるが、堆砂の状況を教えて欲しい。H6には土砂が上流に大量に入ったはず。 	<p>【熊本県回答】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダムは100年の堆砂容量を見込んで設計しています。市房ダムは築後約50年、現状は堆砂容量に対して約7割、総貯水容量に対しては約1割程度です。
<ul style="list-style-type: none"> ・川のすぐそばの水路が排水不良で浸水する箇所があるので、土砂等の撤去をして欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告会后、ご発言をされた方と一緒に現地の確認をさせていただき、土砂の撤去及び水路の補修を行いました。なお、今後の水路の管理は多良木町で行っていただくことになっております。
<p>【球磨川の環境について】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・川は自然のままに残した方がいい。昔は砂利がたまるようなところに砂利業者の施設があり、川もきれいだった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご意見のとおり、河川の良い自然環境はできるだけ保全していきたいと考えています。 河川に堆積している土砂のうち、洪水を安全に流すうえで、問題になると判断される場合には、環境等への影響にも配慮しつつ、除去を行っていく考えです。
<ul style="list-style-type: none"> ・外来種の生息状況をどのくらい把握しているかについて教えて欲しい。錦町の方ではミドリガメが大量に発生していると聞いた。市房ダムでは、昔はヘラブナ釣などが盛んだったが今はダメ。ワカサギについても同様で、ブラックバスが稚魚を食べてしまいほとんどいない状況。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ご指摘のとおり、国の調査でも球磨川でいわゆるブラックバス等の外来種が確認されており、今後、魚類に関わらず、外来生物による在来生物への影響が懸念されることから、関係機関と連携し、適切な対応が出来るよう努めたいと考えています。
<ul style="list-style-type: none"> ・川底の岩には鮎の餌となるコケがつくが、川底を掘削した時にどういった影響が出るか教えて欲しい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・アユの餌となるコケは河床の礫などに付着することから、川底を掘削し礫などが失われてしまうと、アユの生息環境に悪影響を及ぼすおそれがあると考えられます。

※ ご発言をそのまま掲載するのではなく、趣旨を変えない程度にまとめさせて頂いています。

※ 誹謗中傷するような発言については掲載しておりません。